

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072900352
法人名	社会福祉法人 長生会
事業所名	グループホームまつぎきの宿
所在地	福岡県小郡市松崎字福泉塚476-1 (電話) 0942-73-5500

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成20年4月17日	評価確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 9月 2日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 13人 非常勤 6人 常勤換算 15.7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協和病院・富安医院・二宮医院・ヨシタケ脳神経外科・立山歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農村地帯の一角の、のどかな田園風景の中に位置する事業所である。昔は筑前・筑後の境に位置する宿場町として賑わった場所であり、それをイメージした造りになっている。各ユニット名は「筑前」「筑後」であり軒のある各居室は旅籠の屋号が冠されている。居室は9畳大のゆとりある広さがあり、トイレ・洗面台が設置されている。家族・知人が宿泊することもでき、事業所内に客人として仲の良い仲間を呼んだり、お茶を楽しむこともある。利用者本位のケアを目指し、職員と利用者が大きな家族として地域社会に溶け込んだ実践を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善項目は改善シート作成し優先順位をつけ、全て改善されている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各職員が評価シートを記入することによって、評価の意義を理解し、自身の仕事を客観的に捉え直す事ができている。それを基に全体で話し合いを持ち、管理者が集約し、全職員への意識化を図っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状況や外部評価の報告を行っている。また、個人情報利用について運営推進会議で報告を行ったり、地域行事・地域活動への参加を図る等、出された意見を運営に反映している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会があり、意見箱も設け、利用者・家族の意見・苦情・不満を表す仕組みを作っている。家族等の来訪時には職員から積極的に声かけを行い意見等を聞き、日々のケアに反映している。苦情窓口は書面で提示・説明し、第三者委員の電話番号も開示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域行事・活動へ多数参加している。地域の高校生・婦人会等からのボランティアを受け入れ、社協・法人が行なっているボランティア養成実習の一部も受け入れている。近隣の学校の訪問交流もある。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、地域密着型の視点が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝の申し送り時に唱和され共有化が図られており、定期的なミーティングでも確認され意識化されている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事・活動へ多数参加している。地域の高校生・婦人会等からのボランティアを受け入れ、社協・法人が行なっているボランティア養成実習の一部も受け入れている。近隣の学校の訪問交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員は、自己評価や外部評価の意義を理解できている。自己評価については各職員が取り組み、全体で協議し、最終的に管理者が集約した。前回の外部評価の改善項目については、改善シートを作成し、「理念における地域密着型の視点」「同じ内容の食事を一緒に摂る」等について改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の状況や外部評価の報告を行っている。また、個人情報利用について運営推進会議で報告を行ったり、地域行事・地域活動への参加を図る等、出された意見を運営に反映している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の運営について介護保険更新の機会を利用して意見の交換等を行い、連携を取っている。電話でも気軽に相談し指導を受けている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する制度については内・外部研修や後見人実際に話を聞く等し、理解を深めている。また、家族から質問があれば、詳しく制度の説明を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせて報告をしている</p>	<p>行事予定や写真を載せた事業所便りを月1回家族に送付している。家族の来訪時には日々の暮らしぶりや健康状態を報告し、緊急時は電話等で状況等を報告している。金銭管理報告については毎月領収書を送付し、来訪時に金銭出納帳に家族に確認と署名をもらっている。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会があり、意見箱も設け、利用者・家族の意見・苦情・不満を表す仕組みを作っている。家族等の来訪時には職員から積極的に声かけを行い意見等を聞き、日々のケアに反映している。苦情窓口は書面で提示・説明し、第三者委員の電話番号も開示している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は極力少なくするよう努め、異動がある場合は法人内で行い、新任者が馴染むまでサポートしている。職員の異動や退職時は、利用者に不安を与えないような説明を行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたって、性別や年齢によって排除することはない。研修の機会も均等にあり、介護福祉士等の資格手当、女性職員の産休、その後の現場復帰も保障されている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員は採用後、法人全体での研修で人権に対する基本的事項を学び、その後内・外部の研修で学習を積み重ね、現場でのケアに活かしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修受講の機会を保障し、研修参加者は毎月のミーティングで報告・伝達講習を行っている。研修報告の記録があり、いつでも閲覧できる。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者ネットワークへ加入し、それを活用して情報収集、研修参加等を行っている。また職員の交流・電話での質問や情報交換等を近隣の事業所と行っている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が安心して利用を開始できるよう自宅や病院訪問、見学や体験宿泊を実施している。即利用の場合は、利用者が馴染むまで家族にしばらく付き添って貰う等の工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は料理の味見をしたり、習慣・行事等を教えたり畑仕事の指導や手伝い等をし、一方的に介護されるのではなく共に支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の言葉・表情を通して思いや意向の把握に努め、困難な場合は家族から生活歴・好きだったこと等を聴き、その実現に向けて職員間で話し合いながら取り組んでいる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の面会時に本人・家族の希望を聴き、職員の気づきや意見、アイデアを反映しながら一人ひとりのその時点に沿った、個別具体的な計画を作成している。家族から介護計画を了承したサイン・押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、急な変化が生じた場合は、本人・家族、関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人・家族の状況に応じて通院や送迎は柔軟に対応している。入院時には、家族及び医療機関と協議し早期退院に向けて連携を図っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時に説明を行い、事業所の協力医の他、かかりつけ医の医療を受けられるよう家族と協力し、通院や訪問診療を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について事業所の方針がある。利用者・家族・かかりつけ医・職員で話し合って合意を図り、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修等で全職員の意識化を図り、諸場面での声掛けや対応について、日常的にプライバシー確保を心がけ、ケアを実践している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの「その日」のしたいことを把握して、利用者のペースを大切に、希望にそって柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳、お茶入れなど、利用者個々の力を活かしながら職員と利用者が一緒に準備している。また、利用者と職員が同じメニューで食卓を囲み、話が弾む楽しい食事になっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は、利用者の希望を尊重しながら毎日行っている。入浴拒否の場合は、浴室に観葉植物や絵などをしつらえ楽しめるよう、また十分な会話を交わし納得して入浴してもらう等の工夫を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の出来る事や得意な事を把握し、水鉄砲、竹箸作り、漬物やジュース、野菜作り等、生活歴を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気や体調を考慮しながら、希望に応じて散歩したり、友人達との交流を楽しんでいる。外食・買い物・ドライブ等をしたり、また誕生日には、希望の場所へ行けるよう図らっている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関は施錠しておらず、全職員が鍵をかける事の弊害を理解している。また、外出傾向がある利用者を把握しており、見守りの体制が出来ている。近所の方と声掛けや見守りのできる関係を築いている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し、消防署の協力のもと救助・避難訓練を行い、事業所独自の訓練も行っている。また、運営推進会議を通して地域住民の参加を呼びかけている。非常用飲料水や備品はあるが、非常食の準備には至っていない。</p>	○	非常食を準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの日課表に食事、水分量を記録し、栄養摂取量を把握している。栄養士が献立を立て、利用者の身体状況、嗜好に配慮した内容を代表と共に検討している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室には大きなコタツをしつらえてあり、明るくゆとりのある共用空間である。不快な音や光がないように配慮している。季節の花を活ける等の生活感を演出し、家庭的雰囲気の中で居心地よく過ごせるような工夫がなされている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の使い慣れたベッド、整理筆筒、ソファ、仏壇など馴染みのものが持ち込まれ、壁には利用者本人が撮った写真や一日のスケジュール表などが貼られている。それぞれが居心地よく過ごせる居室になっている。</p>		

※ は、重点項目。